

# 学ぶ楽しさを求めた公民的分野の実践

－学習教材の工夫と主体的な活動の実践から－

社会科 富永 和仁

## 1 研究テーマ設定の主旨

2002年度より完全実施される新学習指導要領に伴い、本校社会科では「生きる力」の育成を目指して様々な研究・実践を進めてきた。具体的には総合的な学習の時間「学び方」との関連を図った選択社会科の実践や、「ものの見方や考え方」の育成を重視した必修社会科の実践である。本校の総合的な学習の時間「学び方」では学習スキルの育成とともに課題設定の能力を高めることを目標としており、その学習過程は選択社会科および必修社会科で有効に機能した。一方「ものの見方や考え方」の育成を重視する学習においては、討論学習やKJ法の活用が有効であることが確認できた。

これらの実践から自ら課題を見だし自ら学習すること、さらに生徒が「歴史に対する見方・考え方」に気づくことで「公正に判断する能力を養う」という本校社会科の基礎・基本の達成を図ってきた。

今後は学習の方向性も固まり各学校で様々な実践が行われていく。授業時数が削減されると同時に、学習スキルが重視される学習が増えていく中で、生徒は社会科学習を「楽しいもの」と認識してくれるのだろうか。授業に学習スキルの習得を組み入れてきたが受け入れる生徒の感覚をともしると見過ごしてきた。昨年度までの研究実践では触れられていなかった生徒の情意面について光を当てていくことにし、今年度から「学ぶ楽しさ」について研究を進めていくことにする。

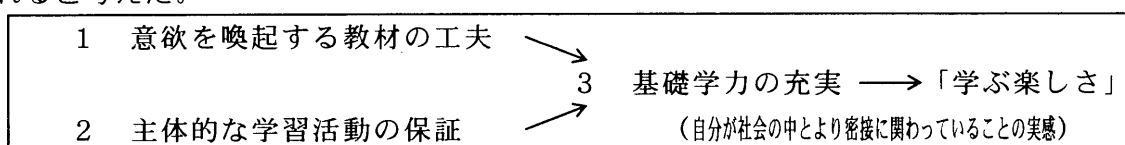
## 2 研究のねらい・予想と見通し

### 1 研究のねらい

生徒の感じる「学ぶ楽しさ」について予想を立て、公民的分野の実践を通して分析し「学ぶ楽しさ」を感じることができる学習の構想を以下のように立てる。

社会科における「学ぶ楽しさ」とは、身近に見られる社会的事象に対して学習活動を行うことにより、「社会的事象に見られる人類の工夫や苦勞・問題点などに気づくことで、自分が社会の中とより密接に関わっていることを実感できること」ととらえた。

また「学ぶ楽しさ」を生徒が実感するためには、教師からの働きかけとして「意欲を喚起する教材の工夫」が必要になると考えた。また、「主体的な学習活動の保証」を教師が行い、生徒が活動的に学習することにより学習の充実感を感じ、「基礎学力の充実」が得られると考えた。



以上の点をふまえ公民的な学習の時間を通して、授業実践を行いその検証を行っていく。

## 2 予想と見通し

### (1) 株式の売買を教材にすることで意欲を喚起した学習が展開できる

複雑な経済学習を株式の売買を教材にして動機付けを図り、生徒の意欲を喚起する。授業と平行して、新聞紙面から株価の動きを追うことにより、株価の上下に興味を持たせその理由を考察することで経済単元の学習により興味を持つことができると考えた。

### (2) 株価を調べその変動をグラフ化することで主体的な学習が展開できる

主体的な学習を確保するために新聞の縮刷版を利用し、10年間の株価の変動を記入させグラフ化を図る。株式の銘柄を生徒に自由に選択させたり、グラフの作成・読みとり、株価が変動する理由を考察したりすることで主体的な学習が展開できると期待した。

### (3) 株式の売買ゲームを通して経済単元の学習事項をの活用を図る

株価の推移を中学校の学習レベルでどこまで考察することができるか心配なものの、「需要と供給の関わり」や「流通革命」「企業の集中」など今までの学習内容と関わらせて考察できるのではないか。この考察を通して基礎学力の定着が図れると期待した。

### (4) 株式ゲームを行うことにより自分と経済の関わりの実感することができる

株式ゲームを行いながら株式の売買における利点やリスクを感じ取らせ、日々行われている経済の胎動を感じさせたい。また資金運営の疑似体験を行うことにより経済の動きと個人の関わりを実感させたい。

## 3 授業実践

### 1 授業の計画

#### (1) 単元名 現代の企業のしくみ

#### (2) 目標

- ・ 株式ゲームを通して身の回りの経済活動に興味を持つことができる。
- ・ 株式の変動に市場原理や金融の仕組み・景気の変動・企業の集中などについての基本的な経済原理をあてはめ考察することができる。
- ・ 新聞縮刷版や株式紙面から必要な情報を収集することができる。またその概要をまとめたり、グラフの作成から傾向を読みとることができる。
- ・ 株式の基本的なしくみや市場原理・金融の仕組み・企業の集中などについての基本的な経済原理を理解することができる。

#### (3) 学習計画

時	学習内容		時	学習内容	
①	株式会社って何だろう ・ 株式会社 他	株を買おう ・ 株式を買ってみよう	④	強い企業の行く先は ・ 企業の集中 ・ 独占の禁止	株を買おう 3 ・ 株価の移り変わりをグラフにしよう
②	銀行と株式会社 ・ 金融市場 ・ 銀行のはたらき	株を買おう 2 ・ 株価を見て売買を考えよう		中小企業対大企業 ・ 中小企業の役割 ・ 企業に求められるもの	株を買おう 4 ・ 株価の変動理由を考えよう
③	資本主義経済と景気変動 ・ 好景気と不景気 他	株を買おう 3 ・ 10年間の株価を調べてみよう			

## 2 授業と考察

今回の実践では一単位あたりの授業と平行して株式ゲームを行った。授業中の15分をゲームにあて株式の売買を行うことで学習への興味関心を高め、併せて既習学習事項との関連を図らせようとしたものである。

株の売買ゲームを通して、学習課題「株式を売買するときにどのようなことに気をつければいいのか」を生徒に考察させ、様々な経済学習との関連に気づかせようとした。

### (1)「株を買おう（株式を買ってみよう）」

本時は右表にあるような簡単なルールをもとに株の売買ゲームを行う。新聞の株式欄（1990年版）を用い、株式欄の見方を説明した後に各自自由に株式を購入する。その際「購入した企業名」「株価」「購入株数」「金額」「購入した理由」を記入させ、手数料を計算し手持ちの金額と手持ちの株式を確認した。このような個人の投資が企業の資本となり株式会社を支えていることをゲームで体感させる。生徒作品1をみると購入理由が森永「新商品のお菓子など」アサヒ「新商品の宣伝、ペットボトルも多い」ハウス「少し（株価が）あがっている、品数が多い」資生堂「商品が多い」昭和シェル「石油はたくさん使うだろう」という記述がされている。

株式の売買ゲームの初日であるためか、購入理由に単純なものが多く、「品数が多い」「商品が多い」などが目に付いた。表現が足りないものの右の生徒では「株価の動向」「需要の増加」などに目を向け、本時の「株式会社のしくみ」や本単元前の「市場の原理」を取り入れながら考察していることがわかる。今後このような考察が増えてくることを期待して、次時にのぞんだ。

### (2)「株を買おう2（株価を見て売買を考えよう）」

（生徒作品 1）

本時は株式会社のしくみと金融のしくみを学習した後に実践したものである。金融の学習を行った後なので銀行など金融機関の重要性が認識され銀行株などの購入等が増える可能性を期待した。前時より1週間の時間を経ての授業でも、株価の動向に注目する生徒が大多数であり、興味・関心は高く一喜一憂する様子が見られた。株価の変動を目の当たりにした生徒の感想は次の通りである。

- ・今まで株の意味がよくわからなかったが、少しだけわかったような気がした。株を買うときにはとても神経を使う。度量もいる。
- ・悩んでやめた株がけっこう上がっていたりしてやっぱり株は難しい。今回は大損害だったけれど、次に期待したいと思う。
- ・現代の企業はこの株が重要で私たちがゲームでするような「楽しい」ものなんかではな

### 株式の売買ゲームにおける約束

- ・元金（資本）は一人100万円
- ・株は例外をのぞき100株単位で購入する
- ・売買する株式の0.1%を手数料として証券会社に払う

① 新聞の株式欄を参考に株を次のルールに従ってみよう。

(1) 株の売買ゲームにおける約束

- ・元金（資本）は一人100万円とする。
- ・株は例外を除き100株単位で購入する。
- ・株の売買では読みかき紙の裏の「A」を手数料として証券会社に払うものとする。

(2) それでは資料（株式欄）を参考に株を買ってみよう。

購入した企業名	株価	購入株数	金額	購入した理由
森永	585	100	58500	新商品のお菓子など。
アサヒ	1160	100	116000	新商品の宣伝。
ハウス	1920	100	192000	ペットボトルも多い。
資生堂	2030	100	203000	商品が多い。
昭和シェル	1020	100	102000	石油はたくさん使うだろう。
売却した企業名	株価	売却株数	金額	売却した理由

(3) 手数料を計算し、現在の持ち株と、手持ちの金額を確認しよう。

手数料（読みかき紙の裏の「A」）を差し引こう。

購入している株

森永→58.5円    ハウス→192円    672円  
アサヒ→116円    資生堂→203円    円  
昭和シェル→102円    円

手持ちの金額

333172円

本時は図書室から新聞の縮刷版を10年分(同月同日で10冊分)を用意し、各自が現在購入している株式の変動を確認していく。東証一部、二部の入れ替わりや、ジャスダックなどの登場によりとまどう生徒も多かったが、追跡できる範囲で株価を調べた(生徒作品6参照)。今までの学習は株価の変動を通して短期的な経済の様子を把握しようとしたが、本時は10年程度の長期的な経済の様子を把握するために株価をグラフに表示する

— 21 —

作業を行った。

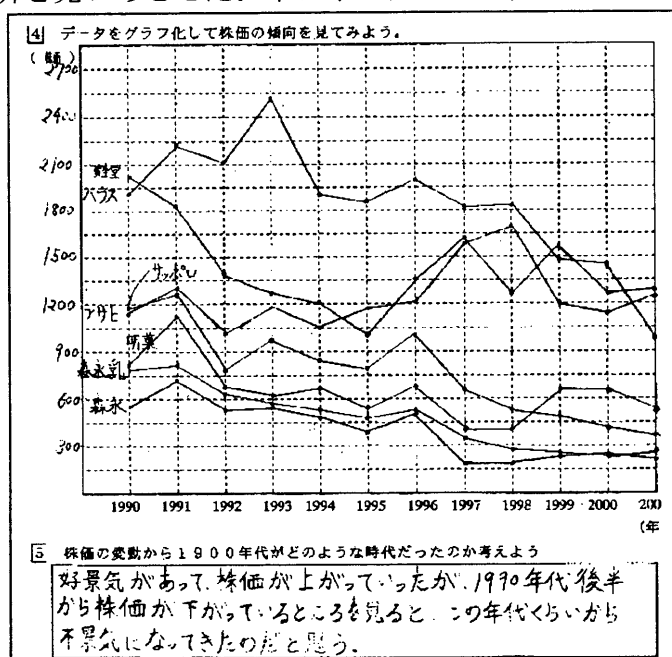
主体的な活動の保証を位置づけ資料の収集・資料の加工を行わせることで「学ぶ楽しさ」が実感できるように配慮した。最初縮刷版からの資料探しやグラフづくりに苦戦していた生徒も教師の支援や他の生徒の活動を参考にすることでグラフを完成することができた。

図書室で今後の株価の変動を確認してみよう。

購入した企業名	今回の株価	株数	1992	1993	1994	1995	1996
ヤマト運輸	2285	100	928	1160	1180	1170	1190
3P.	960	100	—	550	540	—	1200
東電	2915	100	2480	3330	2790	2610	2560
YMF	537	150	986	1510	1120	1780	1520

(生徒作品 6)

次に1990年代を振り返らせ、当時と自分が生まれて育ってきた時代を重ね合わせ経済を見つめさせた。下に示したものが完成させたグラフと生徒の考察である。



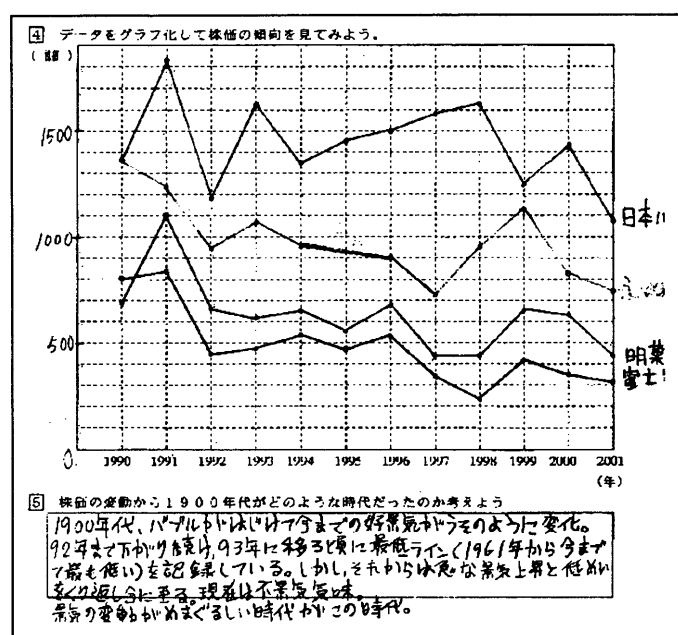
(生徒作品 7)

よく言えば知識が豊かなのだろうし、悪く言えばステレオタイプと言える。

その様子がよくわかるのが生徒作品9にみられる生徒である。グラフの株価が上昇線を描いており株価の変動理由を説明することができない。バブルがはじけているのに、上昇を続けていく理由は何なのか理由付けに苦しんでいる。それぞれの企業にどのような理由があるのか不景気の一言で片づけないような考察力が欲しいところである。よって次時では株価変動の理由を資料集や日頃の生活と関連づけながら

生徒作品7は7つの企業の株価の変動を調べグラフに表した。株価の上昇とその後の下降から好景気・不景気などの景気循環と本時の授業を重ね合わせ考察することができている。

生徒作品8は4つの企業の株価をグラフに表した。「景気の上昇や低迷」さらには「バブルの崩壊」「景気変動」という語句を使って1990年代を説明している。しかし右下がりのグラフが描かれた生徒は生徒はそのほとんどを「景気が悪い」の一言で表現しており、マス＝コミの影響をかなりの部分で受けているように感じた。

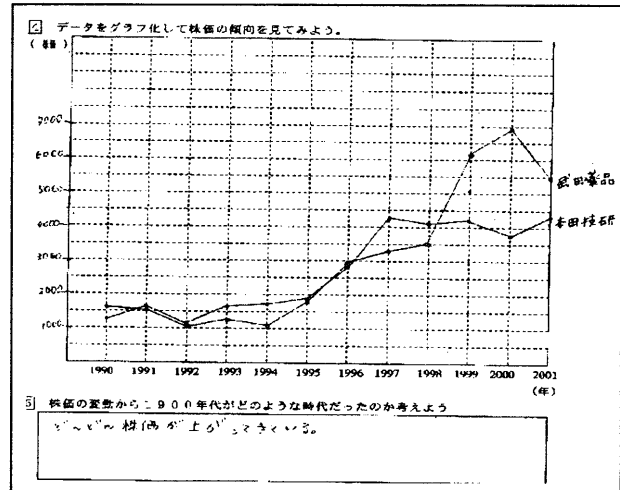


(生徒作品 8)

考察していくことにした。

(4)「株を買おう4 (株価の変動理由を考えよう)」

本時では自身で購入した株式の変動の様子をグラフから明らかにし、考えられる変動の原因を考察していく。株価の変動を通して身の回りで起きている経済活動を理解させようと試みた。この作業で今までの既習事項や生活経験を生かしていくことができると思った。縮刷版の新聞記事や自分の記憶などを頼りに考察させた結果が以下に示したものである。



(生徒作品 9)

購入した企業名	株価の変動の様子	考えられる原因
アヒ	1996年～1998年にかけて株価は上昇し、1999年には下落した。	薬品関連の需要が伸びたこと、また、ヘルメックスが主たる要因から。
森永	1996年～1998年にかけて株価は上昇し、1999年には下落した。	たけのこ系食品の需要が伸びたこと、また、森永が主たる要因から。
田辺薬	1996年～1998年にかけて株価は上昇し、1999年には下落した。	薬品関連の需要が伸びたこと、また、田辺薬が主たる要因から。

購入した企業名	株価の変動の様子	考えられる原因
アサヒ	アサヒの株価は、1996年～1998年にかけて上昇し、1999年には下落した。	アサヒのスーパードライが売れたこと、また、アサヒが主たる要因から。
永谷園	1996年～1998年にかけて株価は上昇し、1999年には下落した。	永谷園の食品が売れたこと、また、永谷園が主たる要因から。

購入した企業名	株価の変動の様子	考えられる原因
富士通	1996年～1998年にかけて株価は上昇し、1999年には下落した。	富士通のパソコンが売れたこと、また、富士通が主たる要因から。
日立	1996年～1998年にかけて株価は上昇し、1999年には下落した。	日立の家電製品が売れたこと、また、日立が主たる要因から。
パナソニック	1996年～1998年にかけて株価は上昇し、1999年には下落した。	パナソニックの家電製品が売れたこと、また、パナソニックが主たる要因から。

購入した企業名	株価の変動の様子	考えられる原因
ライオン	1996年～1998年にかけて株価は上昇し、1999年には下落した。	ライオンの化粧品が売れたこと、また、ライオンが主たる要因から。
東芝	1996年～1998年にかけて株価は上昇し、1999年には下落した。	東芝の家電製品が売れたこと、また、東芝が主たる要因から。
コダック	1996年～1998年にかけて株価は上昇し、1999年には下落した。	コダックのカメラが売れたこと、また、コダックが主たる要因から。

(生徒作品 10)

生徒が考察した株価変動の主な原因は次のようなものであった。

○企業に関すること	・経営方針 ・中小企業の資本力 ・新商品の研究開発 ・シェアの安定
○製品に関すること	・新しいサービスの登場 ・製品の目の付け所 ・安い価格 ・ハイテク技術 ・CM効果
○景気に関すること	・好景気 ・不景気 ・景気の変動
○社会背景に関すること	・需要の増加 (消費量の増大) ・ブーム ・狂牛病の影響
○その他	・他企業との競争

企業や製品、さらには景気についての考察が主であり、市場原理や金融の仕組み・企業の集中などについて考察していた生徒は少ない結果となった。

これらの学習から生徒が学んだ点は次のようなものであった。

学習課題「株式を売買するときどのようなことに気をつければいいのか」

・少し名がある会社を買う、つぶれにくい。不景気の時に買い好景気の時に売る。大企業の株を買う。資本が大きく研究費も多く良いものが安く大量に作れるからつぶれにくく安定している。

・前提として「景気の変動が読めない人は手を出さない方がいい」株価は急に上がったり下がったりするので、その時高値の株が今後ものびるとは限らない。ある程度の手読みをする必要がある。大きな会社の株（マック、ソニーなど）の株は割と安定しているようだがその分大きな利益はない。確実に利益を得る場合はいい。中小企業の株は化ける可能性がある。大きな利益が得られる。100円を切っている会社の株は危ないので買わない。今ブームだからといって会社の株が上がるとは限らない。

・その会社がどんな仕事をしているかという内容をきちんと知る必要がある。あとライバル会社などについても調べるといいと思う。その会社に未来があるのかないのか見極める人じゃないと株を買うのはおすすめでできない。その時の社会現象にも気をつけるべきだ。

#### 4 研究の成果と課題

##### 1 研究の成果

###### （1）株式の売買を教材にすることで意欲を喚起した学習が展開できた

教材による動機付けとして株式ゲームは生徒の意欲を充分喚起することができた。授業と平行して行う形の学習であったが経済単元の学習をより興味を持って行っていた。生徒の関心は株価の上下、いくら金額が増えたか減ったかに集中するものの一次的な興味・関心の喚起には役立つ。

###### （2）株価を調べその変動をグラフ化することで主体的な学習が展開できた

自分が選んだ株価を新聞の縮刷版で調べたり数値をグラフ化したりすることで、オリジナルの資料を作成することができた。グループごとの協力に助けられながらも資料づくりの楽しさから主体的な学習が展開できた。またグラフづくりによって、株価の長期的変動の傾向が具体的に見えてくるため、その後の考察に役立った。

###### （3）株式ゲームを行うことにより自分と経済の関わりの深さを実感することができる

株価変動の理由をみるとCMや価格、製品の目の付け所、ブーム、狂牛病など日頃自分が生活していて目に付くもの、耳にするものが多数あげられた。身の回りの出来事と株価を関連づけて考察しており、これからの経済に対するものの見方が変わっていくと思われる。

##### 2 研究の課題

###### （1）株式の売買ゲームを通して基本的な学習事項の活用ができなかった

教師が期待した「需要と供給の関わり」「流通革命」「企業の集中」などの学習内容が生徒の作品の中にあまり表現されていない。好景気・不景気、需要などが中心であり、学習した内容を現実の社会の動きに対応させながら考察することができなかった。原因に資料の不足が考えられる。またゲームが学習の中心になってしまった点が多いに反省する

ところである。

## (2) 株式投資の意味を伝えられなかった

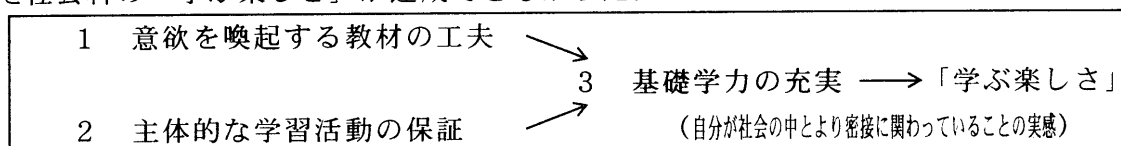
株式の売買ゲームを教材としたため、株式投資の意味を十分に生徒に伝えられず、売買によって利益を出すことが株式投資である印象を与えてしまった。株式投資の本来の意義を十二分に説明した後に行うべきである。

## 5 今後の研究について

「学ぶ楽しさ」を感じる授業を展開するため、株式ゲームを軸としながら学習を行ってみた。「意欲の喚起」は他の学習内容に比べ格段にあがり「楽しさ」を感じる学習を行えた。「主体的な活動の保証」についても生徒が自ら調べ資料を作成し考察することができ、実に意欲的に活動していた。

表面的に見られる「学ぶ楽しさ」が確保でき、自分と社会との密接な関わりについても実感できたものの、企業と金融機関、ものや金の流れなど経済活動の奥行きの深さについて充分実感することがなかった。それらの関わりは単位時間あたりに行われる学習で学んでいくのであるが、本実践では充分機能することができなかった。

社会科では、諸地域の特徴・わが国の成り立ち・社会のしくみや構造について把握することで、現在の自分自身や社会的事象を今までとは異なった視点から捉えことが「学ぶ楽しさ」の大きな要素になる。今回の実践では「基礎学力の充実」に多くの課題を残し、前述した社会科の「学ぶ楽しさ」が達成できなかった。



今後は基礎学力の充実を図り、現在の自分自身や社会的事象を今までとは異なった視点から捉えことで社会科の「学ぶ楽しさ」を見つめていきたい。

### 【参考文献】

はじめての人でも安心してできる 株のことがわかる事典 中島 勲 日本実業出版  
会社四季報 入門の入門 会社四季報編集部編 東洋経済